

抑制ピーマンにおける 天敵を主体とした防除体系

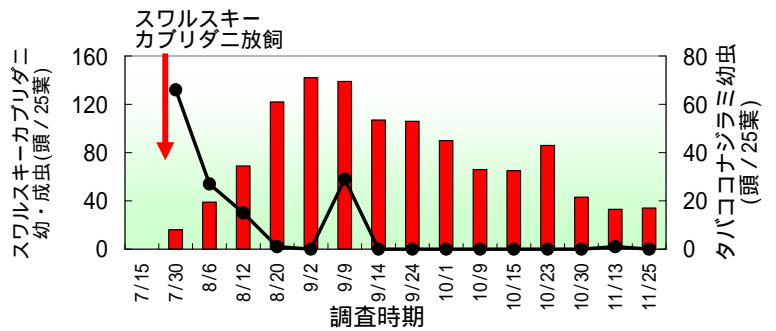
みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

ピーマン栽培においてタバココナジラミ バイオタイプQの被害が拡大しており、特に天敵を利用したピーマン栽培では大きな問題となっています。そこで、抑制ピーマン(7月中旬定植)において天敵による主要害虫の防除法を現地圃場で検討したところ、タバココナジラミ等の天敵スワルスキーカブリダニを定植2週間後に放飼し、アザミウマ類の天敵タイリクヒメハナカメムシなどを併用することにより、体系的に防除できることが明らかとなりました。

スワルスキーカブリダニのタバココナジラミに対する防除効果

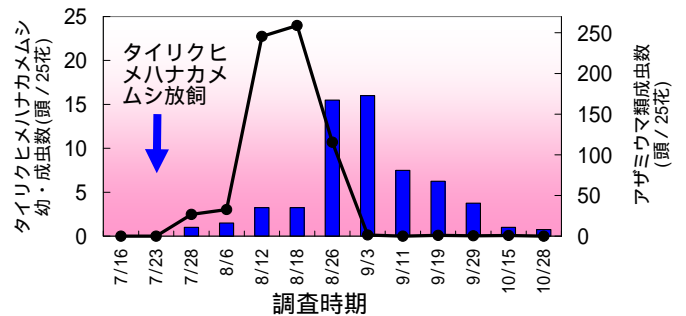
7月中旬定植の抑制ピーマンでは、生育初期からタバココナジラミが発生します。タバココナジラミの発生初期にあたる定植2週間後にスワルスキーカブリダニを放飼することにより、タバココナジラミと花粉を餌として速やかに増殖し、タバココナジラミに対する防除効果が得られます。



スワルスキーカブリダニ、— タバココナジラミ
図1 抑制ピーマンにおけるタバココナジラミに対するスワルスキーカブリダニの防除効果

タイリクヒメハナカメムシのアザミウマ類に対する防除効果

抑制ピーマンでは、優占種であるヒラズハナアザミウマは生育初期から発生します。定植2週間後にタイリクヒメハナカメムシを放飼することにより、アザミウマ類は一時増加するもののタイリクヒメハナカメムシも旺盛に増殖し、アザミウマ類に対する防除効果が得られます。



タイリクヒメハナカメムシ、— アザミウマ類
図2 抑制ピーマンにおけるアザミウマ類に対するタイリクヒメハナカメムシの防除効果

抑制ピーマンにおける天敵主体の防除体系

スワルスキーカブリダニおよびタイリクヒメハナカメムシを生育初期に放飼し、その後、アブラムシ類やハダニ類の発生初期に、コレマンアブラバチやミヤコカブリダニ等を放飼することにより、これらの害虫を防除することができます。

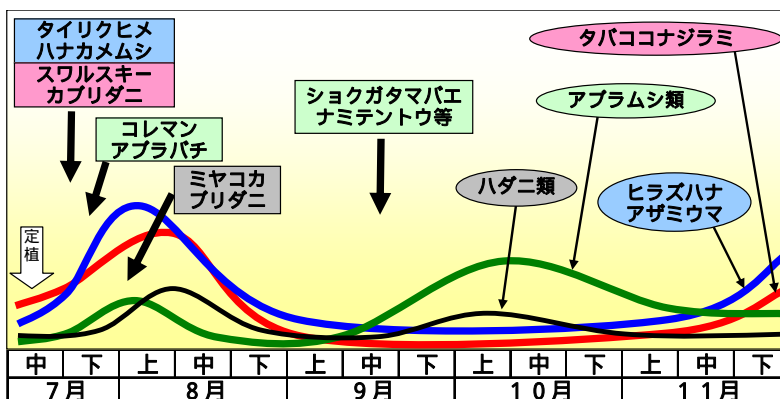


図3 抑制ピーマンにおける天敵を主体とした防除体系の模式図